

# 令和２年度 福知山市施政方針

## 1 はじめに

本日、ここに令和２年第１回福知山市議会を招集いたしましたところ、議員の皆様におかれましては御参集を頂き、ありがとうございます。

来年度予算案並びに諸議案の審議をお願いするにあたり、来年度の福知山市政の施政方針を申し上げます。

## 2 令和元年度の市政を振り返って

昨年５月、元号が平成から令和に改まりました。

美しい調和、ビューティフルハーモニーと英語で表現された新元号の発表は、東京オリンピック・パラリンピックの開催を目前に、過ぎ去った「平成」への郷愁とともに、わが国の心機一転を期待させるニュースであったと思います。

しかし、世界に目を向けると、民主主義国家におけるポピュリズムの台頭、英国のEU離脱に象徴される協調から孤立路線への転換など、平和の尊さや寛容の精神という歴史から学んだはずの教訓が揺らいでいることを感じます。また、巨大IT企業などに先導されるかたちで進展しているデジタル・ディスラプションは、国家と社会のありかたに大胆な変化を迫っています。

昨年１２月マドリードで開催されたCOP25においては、頻発する異常気象を目の当たりにしながら、依然として各国の取組みの温度差や世代間の危機意識の溝が課題として残りました。地球規模の問題である温暖化防止対策だからこそ、人類の理性ある決断と行動がより一層求められていることをいま、痛切に感じています。

そして、水際対策の時期は過ぎ、感染拡大、重症化防止が求められる新型肺炎については、京都府等と十分な連携の下、適切な情報発信などを行って参ります。

さて、昨年本市を振り返りますと、幸いにして大きな水害に見舞われることのない年でありました。

一方で、人口構造の変化は着実に進行しています。合計特殊出生率が高水準で推移しているといっても、平成１０年から平成３０年の人口動態統計をみると、出生数は最も多かった平成１１年の９３１人が平成３０年には６６２人となり、生まれてくる子どもたちの数は減少しています。とはいえ、６６２人という出生数は、京都府下において、京都市、宇治市、長岡京市に次いで４番目に多く、府内他市町と比較し、わずかながら人口構造の変化は緩やかだとも言えますが、この推移を踏まえますと、地域のみなさまのご理解をいただきつつも小学校の統合も避けられない状況にあります。

また、団塊の世代が後期高齢者となって年齢別比率が劇的に変化する、いわゆる２０２５年問題を前に、持続可能な地域社会へのモデルチェンジが急がれており、何も

かもが旧習・前例の通りとはいかない、ドラスティックな発想の転換が不可欠の状況となっています。

こうした現実と将来展望のもと、本市では国連SDGsの理念に共鳴しつつ、世界や社会の潮流がいかに変化しようとも、市民の生活を守り、支えていくことが行政に課せられた最も重要な責務であることを体（たい）しながら、各般の取組みを進めて参りました。

その一端をご紹介しますと、国・府と福知山市とが協調して進めて参りました総合的な治水対策は、令和元年度を計画最終年度とし、次の出水期には効果を発現できる見通しとなっております。

平成30年度に開設いたしました「子育て総合相談窓口」では、子育て支援サービスを集約、養育支援訪問は、前年度比約1.4倍に増加し、本年度は日本最大のコミュニケーションアプリである「LINE（ライン）」を活用してオンラインで直接相談できる専用チャンネルも運用を開始するなど、子どもの成長段階、またご家庭の事情に応じて切れ目なく寄り添う仕組みを整えて参りました。

また、子どもの医療費の負担軽減のために市制度を拡充し、非課税世帯の0歳から中学3年生を対象に、入院を含む医療費の自己負担を無料といたしました。

そして、高齢者の皆様の日常生活をバックアップするため、介護あんしん総合センターを設置するとともに、地域包括支援センターを6か所から9か所に拡充再編し、地域支援コーディネーターを配置して身近な相談・支援の体制を敷いて参りました。その結果、相談件数は、昨年末現在で、前年度の2,731件から3,283件に552件増加をいたしております。

さらに、「福知山市手話言語及び障害のある人の多様なコミュニケーション促進条例」を制定、施行し、障がいのある人の社会参画を促すため、障がいの特性の理解を深めるためのDVDの制作、「あいサポート運動」にも参加し、コミュニケーション支援者養成講座の開催なども進めるとともに、先月末現在で1,746人の方がサポーターになって頂き支援の輪も拡大しています。

また、府内自治体No.1を目指し取り組んできた本市の障がい者雇用率は、法定雇用率が2.5%であるところ、目標である3.2%を上回る3.3%となりましたが、今後もその取組を進めて参ります。

そして、スポーツ推進計画も策定した中で、昨年5月には、市民の皆さんの健康増進、日常的なスポーツの習慣化、生涯スポーツの振興や「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の機運醸成などに向け、住民総参加型スポーツイベント「チャレンジデー」に初参加し、3万人を超える市民の皆様にご参加頂くことができました。

また、企業誘致等の面においては、アネックス京都三和は、平成15年の分譲開始以来、10区画の分譲に留まっていたましたが、この3年間で8区画を分譲し、新たに約250人の雇用を創出して参りました。

さらに、長田野工業団地においては、先月には、車載用リチウムイオン電池の開発・製造・販売企業の第二工場建設の決定が発表され、投資規模は、250億円とも報じ

られております。

そして、企業の駐車場不足に対応し、都市公園の弾力的供用を行うとともに、さらなる歳入の確保もはかるという実例も実現いたしました。

また、昨年、長田野工業団地立地企業との間で、京都府北部で初めての締結となった市民運動場野球場のネーミングライツパートナーシップ、今年度化学消防ポンプ自動車購入のために寄付を受けました企業版ふるさと納税など、本市における投資や地域貢献も進めて頂いております。

加えて、三和町では、市有地を活用しスーパーが開店、大江町でも、スーパーの開店を頂くとともに、本年4月からは、旧大江町議会の議場が大江高校のサテライト教室として利用され、夜久野町では、旧精華小学校のグラウンド跡地に社会福祉施設がオープンします。

先人たちは、度重なる水害などの苦難を乗り越え、このまちを築き、今日まで引き継いでくれました。私はその先人のひたむきな努力を模範として、残りの任期も、持続可能なまちづくりを目指し、情熱を捧げて参る決意であります。

### 3 力強く「新時代・福知山」へ向かう予算

さて、1月から放送が開始されたNHK大河ドラマ『麒麟がくる』は、彩鮮やかな時代衣装が話題ともなり、謎に包まれた前半生、謀反に至る歴史ミステリーも予感させながら回を重ね、ゆかりの地、福知山に対する日本中の関心を集めています。また、福知山城やまちあるきなどの関連番組も数多く放送されるなど、全国の皆さんに福知山を知っていただくかつてない機会となっております。

私は、光秀が福知山のまちづくりの礎を築いたことに、現代にも通じる縁（えにし）を感じます。光秀は外来の人でしたが、この土地を治め、発展させるために治水などにも取り組み、それがまちづくりの礎となり、地域の血肉として今日に引き継がれ、福知山の今があるということでもあります。

外から先進的な知恵を取り入れ、内なる努力と重なり合ったときに、大いなる発展の礎が築かれるということは、洋の東西、時代の新旧を超えて常なるものではないでしょうか。私も、市政を預かる者として、本市の更なる発展に力を尽くし、次世代に引き継いで参りたいと強く思うものであります。

市長就任以来、4年をかけて事業のあり方を丹念に見直してきましたのも、それぞれの目的とゴール、それを実現たらしめる実施手法であるかを洗い出し、市民生活や時代に適合した持続可能な内容へ転換を進めるためであります。

ときに専門的な知見を幅広く取り入れ、庁内外の研修や人事交流を通じて有為な人材の発掘・育成に努め、職員全体の意識改革を図りながら、市民の皆様にも市政の現状と展望をつぶさにわかりやすくお知らせする姿勢を貫いて参りましたのも、今このときに基礎を築き直さなければならない、との危機感からです。

危機感のひとつの背景として市財政に目を向けますと、合併団体としてこれまでピーク時には、単年度で19.6億円割り増しして配分を受け、平成18年度から27年度までの10年間で、総額約174億円加算をされていた普通交付税が、完全に一本

算定に移行します。その恩恵が解消される令和3年度を見越し、身の丈にあった行財政体質に改善することが急務であります。

その体質改善の具体的指針である第6次行政改革については、私の就任前に策定された計画ではありますが、平成29年度に財政構造健全化指針を定めて必要な補完を施し、財務指標の改善に努めて参りました。

その結果、過去7年連続で財政構造の硬直化が進んでいたことを表す経常収支比率を、平成30年度決算では8年ぶりに改善させることができました。財源対策基金につきましても、平成30年7月に発生した合併後最大規模の災害で取り崩しをしつつも、6次行革の目標とする40.9億円の残高を1年前倒し、今年度末に達成できる見通しであります。

歳入面では、クラウドファンディング、ネーミングライツ、企業版ふるさと納税などをはじめ、あらゆる税外収入の確保に向けても注力し、成果を挙げてきたところです。

これらの結果は、もちろん私一人の力によるものではなく、議員の皆様、企業、団体を含めた市民の皆様のご理解とご協力、そして職員の奮闘のたまものであります。

こうした成果を次なる挑戦へつなげ、「新時代 福知山」の基礎を築き、時代の荒波に向かって力強く漕ぎ出して参りたいと考えております。

それでは『力強く「新時代 福知山」へ向かう予算』について、7つの柱ごとに、私の考えを申し述べます。

### **(1) 安心・安全で環境にやさしいまちづくり**

一つ目の柱は、「安心・安全で環境にやさしいまちづくり」についてであります。

昨年5月、滋賀県大津市の交差点で保育園児など16人の方が死傷された痛ましい事故は、ハンドルを握るドライバーに、一瞬の不注意が、罪のない命を危険にさらし、尊い命を奪うことになるという教訓を残しました。

この事故は、市民の皆様をはじめ多くの方が利用される道路環境においては、ドライバー、通行者双方にとって、起こりうる危険をできるだけ想定し、事故を未然に防ぐため、あらゆる方策を講ずるべきであるとの課題を行政に突きつけたものと認識しております。

そこで、福知山警察署と締結した平成29年2月の「福知山市安心・安全まちづくり協定」に基づき、防犯上必要な定点または定時・定路線で運行する車両から街中の安全を見守るとともに、区画線の引き直しなどで道路の危険要因を改善し、住みやすさを実感できるまちづくりに積極的に取り組むことといたします。

ところで、近年、全国的に雨の降り方が局地化・激甚化しており、住民は「自分の命は自分で守る」を基本に自らの判断で避難行動をとり、地域はともに助け合い、行政は関係機関と連携して全力で支援するという、自助・共助・公助の防災意識の高い社会を構築することが求められています。

そこで、令和元年度に新たに立ち上げた「避難のあり方検討会」では、自助・共助・公助のそれぞれの観点から検討を進めており、令和2年度には効果的な情報発信や

高齢者等の避難支援、避難先や避難所運営等について検討結果を取りまとめ、福知山市の避難のあり方の方向性を定めて参ります。

防災行政無線においては、無線規則の改正等に伴いアナログ式をデジタル式へと更新するとともに、新たに防災アプリも導入し、スマートフォン等でも同等の情報が手軽に入手できる、有事の際の基幹的な情報伝達システムとして再構築いたします。デジタル非対応の戸別受信機は令和2年度に更新するとともに、旧市域、旧3町地域でそれぞれ異なっている情報伝達手段を統一化するため、令和3年度以降に計画的に整備する方針であります。

さらに、地域ごとの災害リスクや避難方法を反映した「地域版防災マップ（マイマップ）」の作成に取り組む自主防災組織に対して、支援を継続して参りますとともに、自主防災組織の組織率と機能の向上に努めて参ります。

頻発する内水被害の軽減対策といたしましては、連年で被害を受けた大江町河守から公庄地区において国・府との連携のもと、本市において調節池やポンプ場の整備を行うとともに、公手川の改修に係る設計等を進めます。

また、水防活動の拠点となる水防センターを整備し、風水害による災害に迅速に対応できる体制を強化するとともに、使用期限を迎えるはしご付消防ポンプ自動車、老朽化した高規格救急自動車を更新整備し、消防体制の維持強化を図って参ります。

消防団組織の再編と施設、資機材の整備といたしましては、地域実情にあわせて消防団員の確保対策を図るとともに、再編計画に基づいて詰所の建替・整備を進め、浸水想定区域内に位置する施設の更新を重点的に実施します。

また、地域の消防力・防災力の要である消防団の車両については、平成30年度から老朽車両の集中更新に取り組んでおります。来年度も10台更新し、災害対応力の維持向上を図り、機能強化に努めて参ります。

廃棄物処理については、引続き「ごみの発生抑制、再使用、再資源化」いわゆる3R（スリーアール）を推進することにより、SDGs社会の実現を含む社会状況の変化を踏まえ、環境に配慮した資源循環社会の構築をめざすとともに、時代の変化に対応した「一般廃棄物処理基本計画」を策定します。

「環境パーク」の埋立処分場につきましては、一層の延命化を図るとともに、更なる容量を確保するため、新たに第4期埋立処分場の基本設計等に着手して参ります。

水道事業では、堀山第3配水系統配水管布設替事業をはじめとする老朽化した管路や施設の更新を加速化するとともに、基幹管路の耐震化や、病院・避難所などの災害時拠点となる地区の管路布設替等を計画的に実施して参ります。

下水道事業では、福知山処理区マンホール鉄蓋更新事業、和久市第1ポンプ場雨水放流渠（きよ）更新事業などの施設の長寿命化や管渠の布設替えを進めます。

市民病院におきましては、地域の中核病院として、当地域のみならず広域化する医

療ニーズに応えるため、引き続き医療スタッフの確保と地域医療の連携強化に努めて参ります。また、R I（アールアイ）検査装置など医療機器を更新し、医療提供体制の維持を図ることといたします。

大江分院におきましては、市民病院と連携した総合診療専門医の育成と地域包括ケアシステムを支援するために訪問診療や訪問看護など在宅医療の推進に努めて参ります。

## （2）活力・にぎわいのあるまちづくり

2つめの柱は「活力・にぎわいのあるまちづくり」であります。

先に述べましたように、大河ドラマの放送は、本市にとって千載一遇の追い風と言えますが、その効果を一過性のものにしないことが何よりも重要です。

そのため、市内外に「明智光秀が築いた城下町 福知山」のイメージ定着を図り、福知山城をはじめ、本市の歴史文化ゆかりの施設連携、情報発信等により、観光客等の回遊性を高めるような仕組みを強化いたします。加えて、官民連携組織「福知山光秀プロジェクト推進協議会」を核として、オール福知山の層の厚みと機動力を発揮するとともに、関係者それぞれの役割や責務を明確にしながら、本市のまちづくり、観光・商業の活性化に努めて参ります。

また、大河ドラマ放送期間中はもとより放送後も見据える中で、「知られざる明智光秀プロジェクト」を推進し、光秀が築いた城下町・福知山のブランドイメージを強化していきます。

大河ドラマ後を見据えるなかのひとつとしては、現在休館中のポッポランド1号館の再建を目的に、昨年個人の方から頂戴した御寄付を活用し、お城周辺に新たな賑わいを創出するべく設計に着手いたします。

産業支援策といたしましては、開設後2年間で1,924件の相談を受けた福知山産業支援センター「ドッコイセ!biz」の機能強化を図ります。大学、市内事業者や金融機関、行政といった様々な関係団体がさらに協力し、事業者の課題解決につながる事業の展開を図って参ります。

農業振興といたしましては、福知山ならではの食材と、その際立つポテンシャルをかたちにした名品・逸品を掘り起こし、「ふくちやまのエエもん」として地域内外に発信することで意欲ある農業者を応援して参りました。来年度は、さらに販路確保・収益拡大に向けた新たなアプローチを検討して参ります。

有害鳥獣対策については、本年度兵庫県立大学に委託した「シカ生息密度調査」に基づき、捕獲の必要量をエリアごとに設定し、対策を強化します。また「鳥獣対策レベルアップ事業」としてモデル地区を選定し、専門家のサポートのもと、地域課題解決のための改善プログラムを実行し、より効果的な捕獲対策を推進いたします。

森林分野においても、昨年4月に施行された「森林経営管理法」に基づく事業を展開してまいります。また、「京都府豊かな森を育てる府民税」の市町村交付金を活用し、特用林産振興や防災対策等も推進いたします。

移住定住事業につきましては、京都府が指定する移住促進特別区域の拡大による空き家の掘り起こしや地域の受け入れ態勢の促進、ニーズに応じた行程で展開する「福知山暮らし体感ツアー」、収穫や地域イベントなどに参画していただく「ふくちやまワークステイ」など、体感・体験型の移住者呼び込みツールを都市部住民に積極的に発信し、移住候補地としての認知度を高めて参ります。

### **(3) 市民協働・人権尊重のまちづくり**

3つ目の柱は、「市民協働・人権尊重のまちづくり」であります。

市民協働とは、「市民がまちづくりの主体」とであると本市自治基本条例に謳われているとおり、「市民及び市がそれぞれの果たすべき役割及び責任を認識し、対等な立場で相互に協力して行動する」姿を表しています。

福知山市においても、市民の皆様おひとりおひとりの暮らし・生き方を尊重し、それぞれのかたちで主体的に公共へ参画いただき、それぞれのご意見を拝聴しながら市民全体の意思を体（たい）し、ともに力を合わせながらまちづくりを推進するという基本姿勢を貫いてまいります。

来年度は、人権施策の基軸となる「第3次福知山市人権施策推進計画～いのち輝きゆめプラン～」の中間見直し、また「第3次福知山市男女共同参画計画 はばたきプラン2011後期計画」の次期計画策定を行い、本市市民憲章が掲げる「共に幸せを生きる」共生社会を実現して参ります。

また、戦後75年という節目の年でもありますことから、昨年度に引き続き子どもたちを対象として世界平和に関する学習の機会を提供するとともに、国の慰霊巡拝事業に参加されます戦没者御遺族の負担に対し、本市として支援をさせていただくといたします。

さらに、これまで「次世代交流ワークショップ」で若者が様々な世代や立場の市民の皆さんと意見を交換してきた手法を発展させ、高校生・大学生等を対象に、新たに参加型実践型の人材育成を開始いたします。

本市の総合的なまちづくりの指針につきましては、現在の「未来創造福知山」が令和2年度末で計画期間が終了するため、現計画の成果と課題を検証し、市民アンケートの結果等を踏まえながら、新たなまちづくりの構想と戦略的なロードマップを策定して参ります。

### **(4) 福祉と子育て支援充実のまちづくり**

4つ目の柱は、「福祉と子育て支援充実のまちづくり」であります。

子育て支援におきましては、令和2年度以降の計画として提案いたしております「第2期福知山市子ども・子育て支援事業計画」（令和2年度～令和6年度）に基づき、子どもたちが心豊かに育ち、親が安心して子どもを生み育てることができる環境づくりを進めて参ります。なお、この第2期計画には子どもの貧困対策についても盛り込み、

子ども自身が身近な育ちの環境に左右されることなく将来の夢を実現できる地域を目指します。

国の少子化対策の一環として、令和元年10月1日より全国で幼児教育・保育の無償化が実施されたことを受け、市内の保育所・幼稚園・認定こども園においても保育料を無償化すると同時に、それ以外の無償化関連事業も引き続き実施して参ります。

さらに、公立幼稚園においては、夏季休業中の預かり保育を開始し、多様なニーズに応じた就学前教育・保育を充実させて参ります。

「子育て総合相談窓口」におきましては、子育て家庭の多様な相談ニーズに対応するため、引き続き手続きのワンストップ対応で利便性を向上させるとともに、家庭訪問等のアウトリーチ型支援の強化、学校等子どもが所属する機関との連携強化などにより、一般的な子育ての悩みから虐待など緊急度の高い相談まで、子どもと保護者へのサポートを充実させることといたします。同時に、相談内容の分析を行い、対症療法的な対応にとどまらない手前手前の対策が講じられるよう努めて参ります。

また、感染症対策として、これまで任意で受けておられたロタウイルスワクチンの予防接種を10月1日から定期予防接種へ追加し、子どもの健やかな成長を支援して参ります。

高齢者福祉におきましては、団塊の世代が後期高齢者になる2025年以降に介護人材の不足や医療・介護需要のさらなる高まりが予測されております。こうした将来を見据え、高齢者のみならず、すべての市民が今後も住み慣れた地域で安心・安全に暮らしていくために、「病気にならない」「介護状態にならない」といった予防の取組が重要であります。

このことから健康寿命の延伸を目指して、令和元年度に配置を進めた地域支援コーディネーターが中心となり、各地域でモデル的に貯筋体操に取り組む団体の立ち上げを図って参ります。

また、地域で生活をされる一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加する中、例えばゴミ出しや電球の交換など、高齢者ご自身では解決できないちょっとした生活の困りごとに、地域で対応していく先進的な団体等の取組みに対して、介護保険の地域支援事業を活用して、市としての支援を開始いたします。

さらに、市民や企業が行政と連携し展開しております「認知症サポーターのオレンジリング」、「子ども虐待防止のオレンジリボン」、「あいサポート」の3つの運動を「オレンジのまちづくり」として一体化し、相互の連携を図って参ります。そのひとつの契機として、8月に予定されている東京2020パラリンピックの聖火フェスティバル（採火式）を活用してオレンジのまちづくりを発信し、福祉のまちづくりの推進と、共生社会の実現を目指して参ります。

## **(5) 教育と文化・スポーツ環境充実のまちづくり**

5つ目の柱は、「教育と文化・スポーツ環境充実のまちづくり」であります。まず教育についてであります。



本市教育委員会では、「自分のために 人のために 社会のために 共に幸せを生きる人材の育成」を教育目標に、学校教育・社会教育が連携しながら、学んだことを自分の幸せや夢の実現のために活かすとともに、他者貢献や社会貢献ができる、高い志をもった人材の育成に努めています。

そこで、児童生徒にとってより良い教育環境を整え教育内容の充実を図るべく、保護者や地域の皆様のご理解をいただきながら、学校の適正規模・適正配置に取り組んでおります。

施設の面では、来年度は、令和3年4月の大江地域小中一貫教育校開校に向け、引き続き校舎の増改築工事等を進めるとともに、昭和小学校・惇明小学校では今後の児童数増加を見通し、それぞれ給食配膳室等の増改築、校舎改修を進めて参ります。

学校施設機能の全体的な老朽化対策といたしましては、有利な財源を確保しつつ計画的な長寿命化に取り組み、安全・安心な施設整備に努めて参ります。

教育内容の面では、令和2年度から順次小中学校で実施される新学習指導要領の趣旨を踏まえ、子どもたち一人一人の創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて、まずは指定校研究を拡充し、国が進めるGIGAスクール構想に即応した授業研究を開始するため教員の指導力向上に取り組むと同時に、学籍簿や出席管理、成績管理を正確かつ迅速に行える校務支援システムを導入し、教育・指導に専念できる体制の充実にも取り組んで参ります。

防災教育においては、「生きる力をはぐくむ」を基本において、「自分と周りの人の命を守る行動がとれる」児童生徒を育成して参ります。

福知山公立大学につきましては、情報学部が開設され、Society 5.0の時代にAIやIoTなどを駆使し、地域経営学部の地域実践型教育とともに、地域課題に対応する基本理念の実現に向け取り組みます。

2学部600人を超える学生が在籍する規模となり、ハード面では学生増に対応するキャンパス整備を継続し、隣接する京都工芸繊維大学福知山キャンパスとともに北近畿の「知の拠点」を推進して参ります。ソフト面では、国の制度として導入される「高等教育無償化制度」に市単独の減免措置を組み合わせ、幅広い世帯の入学生・在学生の就学環境を支援して参ります。

スポーツ振興につきましては、東京2020オリンピック聖火リレーや8月の全国高等学校総合体育大会ソフトテニス競技など、全国からの注目度の高い事業を実施して参ります。また、本市で初めての大規模な国際大会となる2021年5月の「ワールドマスターズゲームズ2021関西」のソフトテニス競技の開催を控え、競技団体や京都府及び各関係機関と連携し、ソフト・ハードの両面から諸準備を進めます。

さらに、スポーツイベントの実施を支えるボランティアについて、地域における支え合いの結節点として重要な存在であると再定義し、身近な関係者の参加にとどまらせることなく幅広い参画を募りながら、国内外から来福される方々を笑顔でお迎えし、福知山市を挙げて「おもてなし」する機運の醸成を図り、スポーツによる人の交流促進と市民力、地域力の向上を目指して参ります。

## **(6) 生活基盤の整ったまちづくり**

6つ目の柱は、「生活基盤の整ったまちづくり」であります。

福知山の強みのひとつは、旧福知山市の市制施行後に、あるいはそれ以前から先進的に整備されてきた都市基盤であります。

地方都市でありながら、様々なインフラが整い、“意外と便利”、“意外と都会”な個性を持つがゆえに、災害に度々見舞われてきたにもかかわらず人口が集積し、商業、交通、産業、教育などの生活基盤が強化されてきた歴史があります。その基盤を強化し、適切なメンテナンスを施し、未来に引き継ぐ取組みを進めて参ります。

まず、造成から長期間が経過した長田野工業団地においては、街路樹や緩衝緑地等の樹木が巨木化・繁茂し、操業環境の支障または通行の危険要因にもなっていることから、平成30年度に策定いたしました「長田野工業団地利活用増進計画」に基づき、計画的な伐採等を進め、安全で快適な団地内環境を整備して参ります。

延伸工事を実施中の川北橋につきましては、由良川水系河川整備計画による築堤事業の進捗と整合を図りながら、令和3年の開通を目指して引き続き重点的に取り組んで参ります。

市営住宅につきましては、福知山市公営住宅等長寿命化計画に基づき、老朽化した「つつじが丘団地・向野団地」については、本市初のPFI方式により、基本計画に基づき地元との調整を図りながら建替事業を開始いたします。

公共交通につきましては、少子高齢化や過疎化、また自家用車に依存する社会環境、さらに、バスやタクシーの運転手不足、燃料費の高騰により路線の維持が厳しい状況にあります。こうした現状と、新たな移動手段の実証実験を踏まえ、本市の公共交通ネットワークを構築するためのマスタープランである「福知山市地域公共交通網形成計画」の次期計画を策定いたします。

そして、気候変動が現実化する中、本市においては、頻発する水害により甚大な被害が発生をいたしてまいりました。そのような本市が率先垂範し、脱炭素化に向け取組を進めるため、昨年には、クールチョイス宣言を行いました。その具体的施策の端緒として、まず、令和2年度から、市の一部施設の電力を再生可能エネルギー由来の電力の受給に切り替えて参りますほか、公用車の計画的電動化等の検討も行って参ります。

## **(7) 行財政効率の高いまちづくり**

7つ目の柱は「行財政効率の高いまちづくり」であります。

4年間の事業棚卸しを通じて私たちに提示された課題は、ひとつには施策の目的とゴールを明確に定義できているのか、2つ目にはそこへ至るプロセスをしっかりと描き切り、最小の経費と最短の時間で結果につなげているのか、の2点であります。

いわば、ベクトルとスピードを適切に設定し、制御するマネジメント能力の定着・向上が職員のみならず行政全般に求められていると改めて認識しております。

そこで、政策分析・立案の基盤となる統計データの精度を向上させるとともに、業務に有効活用する技術を庁内で浸透させ、さらには、そのデータを活用した市民活動を喚起するべく、市が保有する統計数値のオープンデータ化を推進することといたします。

また今年度に導入したRPAの成果をさらに発展させるため、令和2年度には、大量の申請書類に記載された手書き文字等の情報を、機械で正確に読み取り、電子データに変換をするAI-OCRを導入し、情報の入力作業自動化により、企画立案などの業務へ注力できる業務環境の整備を推進いたします。

公共施設マネジメントにおいては、令和2年度から始まる後期実施計画に基づき、地域のご理解とご協力の下で個々の施設の再配置と集約化・複合化を図ります。また、存続する施設については、予防的な修繕等を計画的に実施することにより施設の長寿命化を図るための個別施設計画を策定いたします。

さらに公有財産の余剰空間や売却可能資産の洗い出しを進め、積極的に売却や貸付等を行って財源の確保を図るとともに、用途廃止財産についてはスピード感を持ってサウンディング型市場調査等を行い、民間資本等を最大限に活用した有効活用を図って参ります。

全事業の棚卸しは令和元年度までの4年間で完了いたしました。来年度以降については、行政改革推進委員会の答申を踏まえつつ、行政経営改革をさらに推し進めるため、施策の進捗管理や事業の関連性を意識した新たな評価システムの構築を図って参ります。

#### **4 令和2年度予算編成**

以上、主な施策・事業について申し述べて参りましたが、令和2年度予算につきましては、一般会計で総額400億2000万円といたしました。

歳入面では、市税収入は個人市民税、固定資産税等の各税で今年度の実績見込みを考慮し総額1億2300万円余の増収を見込んでおります。

普通交付税においては、合併算定替え特例加算の縮減等を受けて対前年度比3億円の減少を見込んでおりますが、法人事業税交付金の新設や地方消費税交付金、環境性能割交付金の増収を見込んだこと等により結果として経常的な一般財源の総額は1億6900万円の増加となる見通しです。

歳出面では、6月の市長選挙を控え、災害復旧費等の減少とあわせて政策的な新規事業を抑制した骨格型としつつも、市民生活に必要な継続的事业、また令和2年度着手を前提として準備を進めてきた事業はしっかり盛り込んだ内容といたしました。

経常的な歳出においても、令和元年度に行った公債費繰上償還による効果もあり、抑制を図った内容といたしております。

市債の発行につきましても、前年度に比べて5億5100万円の減額とし、後年度への負担に配慮した予算といたしました。

さらに大河ドラマや公立大学情報学部の新設という臨時的な財政需要を含みつつ、財政調整基金や合併算定替減対策基金を取り崩すことなく収支の均衡を図り、財政構造の健全化、行財政運営の持続可能性を具現化した予算といたしました。

このほかにも、財政構造健全化の取り組みといたしましては、まず歳入面において、引き続き公共施設マネジメントにより創出される土地の収益等を一般行政経費に充当することなく、公共施設等総合管理基金に着実に積み立て、将来の公共施設にかかる様々な需要に備えて参ります。また産業廃棄物の処理手数料につきましては、受益者である事業者のご理解のもと、段階的に見直しを進め、安定的な財源の確保を図って参ります。

歳出における健全化の取り組みでは、第三セクター等改革推進債の計画的な繰上償還により、平成24年度に発行した29億9600万円の借入金が令和2年度末に残高4500万円まで圧縮の見込みであります。

一方で、弾力性の乏しい財政構造の改革は依然として課題であり、一般歳出に占める義務的経費の割合はなお予断を許さぬ水準にあります。そこで、行財政改革の進捗を期する姿勢を引き続き示して参りますため、私の任期中限りではありますが、今年度に引き続いて市長・副市長・教育長の給料、課長級以上の管理職手当を削減いたします。

結果として、一般会計は令和元年度に比べて15億8000万円、3.8%の減少、特別会計の予算は総額192億6097万7000円、公営企業会計の予算は総額266億9880万円で、全会計を合わせまして859億7977万7000円としたところであります。

## 5 むすびに

さて、昨年秋、アジアで初めて日本を開催地として行われたラグビーワールドカップ2019大会は、ワールドラグビーの会長から「最も偉大なW杯として記憶に残る」と賞賛されるとともに、ラグビーの素晴らしさを私たちの心に刻みました。

One Teamというシンプルな言葉とともに快進撃を果たした日本代表の躍進はもちろんのこと、全力で立ち向かいあった相手同士を称えあうフェアプレーの精神、また台風の影響で試合が中止になった不運をかこつことなく、被災地の復旧に力を貸した各国選手たちのすがすがしい姿が日本中で感動を呼び、世界の人々に勇気と希望を与えました。

持続可能な未来の扉を開くのは、分断と対立ではなく、信頼と協調であります。

大河ドラマ『麒麟がくる』の放送、また2020インターハイや「ワールドマスタースターズゲームズ(WMG)2021関西などのスポーツイベントの開催、情報学部の開設により知の拠点としての期待が、さらに高まる福知山公立大学など、本市においても積年のさまざまな努力が実を結び、花開こうとしております。

それぞれの花が、市民の皆様の心身ともに豊かな未来に向かって、大輪の花を咲かせ、また次の種を宿し『新時代 福知山』の営みが続き、しっかりと次の世代に引き継

がれていけるように、市民の皆様、議員の皆様のご理解とご協力を賜りながら、今まで以上に挑戦を続けて参りたいと考えております。

以上、私の所信を述べまして、令和2年度を展望する施政方針といたします。ご静聴まことにありがとうございました。